

11の未来力を17の保育力で育む未来創造プロジェクト

—9割のアナログ保育と1割のデジタル保育—

鹿児島県鹿屋市 つるみね保育園 園長 杉本 正和
abcdefg@po5.synapse.ne.jp

キーワード：デジタル保育、アナログ保育、未来力、保育力、iPad

1. はじめに

過疎化少子化高齢化が著しく進む地域にある、定員50名（在園66名）の小さな保育園から育っていく子どもたちに、不易流行の保育を創造実践したいという想いで、2年前に構想したのが、当園オリジナルの保育課程、未来創造プロジェクトである。

激変が予想される未来を、たくましく生き抜いてほしいと願い、田舎ならではの豊かな自然環境を生かした体験的な保育の中に、少しだけ、最先端のデジタル技術を活用した保育を取り入れ、バランスを重視した計画的な保育を実践している。この取り組みが、子どもたちの笑顔の幅を大きく広げ、興味関心意欲を高めていることを確信できている。さらに、就学前教育においても、ICTの研究が進むことを願い、アナログとデジタルを融合した、新しい保育の創造と実践の様子を紹介していきたい。

2. 未来創造プロジェクト

保育環境の整備・職員の資質向上・保護者との連携を図り、9割のアナログ保育（汗にまみれ、泥にまみれ、人にまみれる伝統的な保育）と、1割のデジタル保育（デジタル技術を効果的に利用する先進的な保育）で、17の保育力を実践し、興味関心意欲・感性・創造性・11の未来力を育む構想である。発達段階に応じた未来創造カリキュラムも作成中である。一人ひとりが、たくましく育つ大木となるように、さまざまな支援や保育の実践的な研究を進めている。



図1 未来創造のイメージ図

11の未来力と17の保育力

運動的未来力（のびのびタイム・体操ランニングタイム）

音楽的未来力（ほのぼのタイム・童謡タイム）

伝統的未来力（わらべ歌タイム）

道徳的未来力（読み聞かせタイム）

表現的未来力（プレゼンタイム・アートタイム）

科学的未来力（科学タイム）

自然的未来力（エンジョイタイム・フリータイム）

思考的未来力（パズルタイム）

健康的未来力（元気タイム）

言語的未来力（ひらがなタイム・イングリッシュタイム）

先進的未来力（デジタルタイム・アトムタイム）

3. 9割のアナログ保育

当園の特色は、恵まれた自然環境と人間力を生かした、のびのびほのぼのとしたアナログ保育である。



写真1 築山人工芝スキー

写真2 椎茸の収穫



写真3 ギターとアコーディオンでの音楽レク

また、科学的未来力を育むために、毎週、科学タイムで、さまざまな体験的な科学遊びを実践し、2年連続、ソニー幼児教育支援プログラムで入賞している。

4. デジタル保育

未来力を育むために、さまざまな保育に取り組む中で、よりわかりやすく、より正しく、より刺激的に情報を伝えるためには、デジタル技術の効果的な活用が、大きな効果を生むことを実感し研究を進めている。

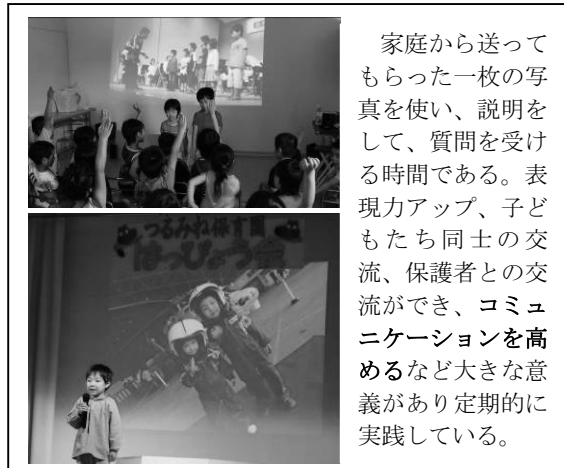


写真4 大画面で保育アプリを楽しむ園児

当初、各クラスに、iPad・プロジェクター・スクリーンを運んで実践していたが、子どもたちのとびっきりの笑顔を見ることが続き、デジタル専用の部屋（アトムの家）を増設した。その際、短焦点プロジェクターを導入し、壁の一面をスクリーンにしたことで、デジタル技術の利用が容易になった。このデジタル環境を整えたことで、各年齢の発達段階に応じた、アイデアを生かしたデジタル保育が進んだ。

デジタル保育は、1台のiPadを大きなスクリーンに投影し、みんなで活用するのを基本のスタイルにしている。一人ずつの利用時間は短くなるが、みんなが注目する中で操作し、大きな拍手を受けることで、輝くような笑顔が見られる。デジタル技術を介して、コミュニケーションが図られていると感じる瞬間である。家庭でのiPadはゲーム機にしかならないが、保育園は違うとか、さまざまな情報に関心を持つようになったなど、保護者も、集団生活でのICT利用の良さを認識している。また、表現力の育成にも大きな効果があることを、いろんな場面で評価を得ている。

(1) プレゼンタイム 写真 5・6



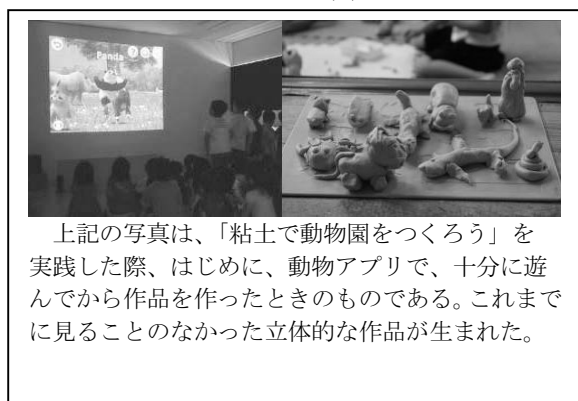
家庭から送ってもらった一枚の写真を使い、説明をして、質問を受ける時間である。表現力アップ、子どもたち同士の交流、保護者との交流ができ、コミュニケーションを高めるなど大きな意義があり定期的に実践している。

(2) Google Earth・YouTube の利用 写真 7・8・9



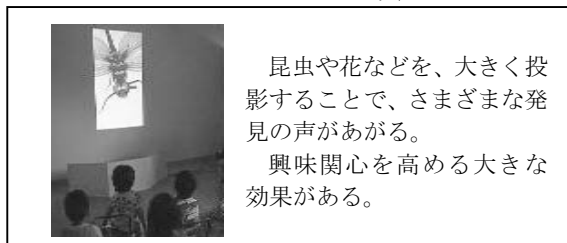
正しい知識を、わかりやすく伝えるために、Google Earth と YouTube は大いに役立っている。給食で県外の郷土料理を教えるときや、台風被害のフィリピンやロシアのソチなど、話題となっている地域に、いつでもすぐに出かけ、ストリートビューも利用している。食育や衛生指導においても、調理員や看護師が、適切な動画を利用している。大画面で知り得た情報は確実に、子どもたちの心をゆさぶり、すぐに実践につながるという大きな効果を常に感じている。

(3) イメージ作りに利用 写真 10・11



上記の写真は、「粘土で動物園をつくろう」を実践した際、はじめに、動物アプリで、十分に遊んでから作品を作ったときのものである。これまでに見ることのなかった立体的な作品が生まれた。

(4) マイクロスコープの活用 写真 12



昆虫や花などを、大きく投影することで、さまざまな発見の声があがる。
興味関心を高める大きな効果がある。

(5) 発表会でのバック絵利用 写真 13・14



バック絵をデジタル化することで、職員の負担が軽減された上に、ムービー活用など、さまざまなアイデアを生かし、保護者にも大好評である。紅白歌合戦のデジタル演出に近い効果が実現できている。

(6) 保育アプリ・絵本アプリの利用 写真 15・16



多くの種類があり、発達段階に適したアプリを見極めるアイデアとセンスが職員に求められる。タブレット機器は低年齢児でも抵抗なく楽しく使える。

(7) その他

Face Time でのライブ中継、絵本の創作、映画の上映、偉人の紹介、デジタルカメラの園児使用、保護者のデジタル同好会活動など、実践は多岐にわたる。

5. 今後に向けて

大きな保育効果のあるデジタル保育だが、幼児期には体験的な保育が重要であると感じており、「9割のアナログ保育と1割のデジタル保育」のバランスを継続しながら研究を進めている。また、「デジタル保育の一番の推進者で、一番の批判者でありたい！」との想いで、常に職員間でPDCAを繰り返している。

デジタル保育の充実、アナログ保育の質の向上にもつながっている。これは、計画的保育が進み、保育内容が充実し、職員の資質向上が図られたと考えている。今後は、複数のiPad購入の予算化を検討し、園児利用と、職員の仕事効率化利用の研究を深めたい。

今回の受賞を機に、デジタル保育からデジタル教育へ、アナログ保育からアナログ教育へという、幼小連携の系統的な流れの研究を進めたい。小学校17年、保育園13年の勤務経験から、アナログとデジタルの融合は、保育や教育における未来創造のイノベーションになると確信している。子どもたちの未来へつながる笑顔を引き出すため、研究の輪を広げ、工夫改善に努めたい。ご意見を伺える機会を得たことに感謝！